

第5学年〇組 国語科学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 単元名 人物の考え方や生き方をとらえよう『わらぐつの中の神様』

2 指導の考え方

— 子どもの実態 —

本学級の子どもたちは、1学期に物語文『新しい友達』の学習で、主人公の心情の変化を叙述に即して読み取り、自分自身の友達との関わりを考えてきた。

これまでの学習を通して子どもたちは、読みの根拠となる叙述を示すことはできるようになってきているが、文章構成の意図を読んだり場面と場面をつないで読んだりする読み方は身につけておらず、叙述を解釈して自分の読みを作っていく力も十分にはついていない。

そこでこの単元では、文章構成を意識して場面と場面のつながりを読んだり、読み取った内容から自分自身の生き方や考え方をみつめ直す活動をしたりして、いろいろな読み方や解釈した内容から自分の考えを作り出す力を身につけさせていきたい。

— 教材の特質 —

本教材は、人の身になって一生懸命尽くす心を大切にしてきたおばあちゃんとおじいちゃんの生き方と、その生き方にふれて変容していくマサエの姿を描いた作品である。自分と同年代のマサエの変容を読むことで、人として大切な考え方や生き方について考え、また自分自身を振り返る上で適した教材といえる。

文章構成は、「現在－過去－現在」という三つの場面から成り、おばあちゃんの昔語りを現在のマサエとおばあちゃんとのやりとりで挟みこむ構成になっている。また、過去から現在に戻る冒頭に昔語りを組み込み、おばあちゃんとおじいちゃんが変わらぬ生き方をしてきたことを伝えようとしていることも構成の特質としてあげられ、文章構成の意図や場面と場面を比べて読む力を育てることができる。三代にわたって女性を登場させている人物設定には、人として大切な考え方や生き方を伝える方法として、作者の意図をうかがうことができる。

表現の特質としては、繰り返しによる強調、文末表現の工夫、類縁語の使い分けなどが巧みに書き表されていることがあげられ、読み確かめていく中で、それらを読む力を育てることができる。

— 指導にあたって —

まず、単元名の内容を確認した後、題名と冒頭をつないで読み、おばあちゃんの思いとマサエの変容を読むためのめあて「おばあちゃんはわらぐつの中に神様のいなった話で、マサエに何を伝えたいのだろう」「マサエは話を聞いてどう変わるのだろう」を生み出していく。

次に、全文を読み通して予見（読みのめあての答え）を書きまとめる。書きまとめる前に、難語句を辞書で調べさせ、また、文章構成を押さえあらすじを全体で確認しておくことで主述や修飾・被修飾の関係、文の構成についての理解が深まるようにする。

そして、予見を出し合うことで予見を方向づけ、読みの違いや重なりを確認することでこれから読み確かめていく必要感を持たせる。

学習計画では、予見の違いや重なり、疑問を位置づけながら、おみつさんと大工さんの言葉や姿（現在も含めて）と、昔語りを挟んでのマサエの言動の変容を丁寧に読み確かめる計画を立てる。

読み確かめでは、繰り返しや文末表現、似た言葉の比較や場面と場面をつないで読む読み方に着目して読み深めさせていく。

最後に、読み確かめてきたことをもとに主題についてもう一度考え、友達と交流することで、自分の見方・考え方を振り返らせ、読みのまとめをする。また、本単元で学習した読み方について振り返り、定着・転移をはかる。

3 目標

- 人の身になって考えるおばあちゃんとおじいちゃんの生き方とその生き方にふれて変容していくマサエの姿を読み取り、自分自身の生き方を振り返ることができる。
- 文章構成や人物設定の意図を考える読み方や、繰り返しや文末表現に着目した読み方を身につけることができる。

4 学習計画（全11時間）

次	時	主な学習活動	指導上の留意点
読 み の め あ て	1	1 単元名について話し合う。	○ 人物の考え方や生き方を読み取ることを通して、自分の考え方や生き方について見つめるという学習の構えを作る。
	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 単元名・題名・冒頭から読みのめあてをつくろう。 </div>	
	11	2 題名について話し合う。	○ わらぐつの補足説明をする。 ○ 「神様」という言葉から受けるイメージや、「わらぐつ」と「神様」の対比から、わらぐつの中にどんな神様が入っているのだろうという視点を持たせる。
		3 冒頭を読み、おばあちゃんとマサエの見方・考え方の違いを読み取る。	○ マサエとおばあちゃんの見方・考え方の違いと、「神様」が何を表しているのかがまだわからないことを確認する。 ○ マサエの見方・考え方についてどう思うか、自分との共通点はどこかの書き込みをさせることで、自分の、ものや神様への見方・考え方にも気づかせる。 <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 「やだあ、わらぐつなんて、みったぐない。」「わらぐつの中に、神様だって。」「そんなの迷信でしょ、・・・」 →ものを見かけで判断している。わらぐつと神様がまったく結びつかず、おばあちゃんの言うことは信じていない。言い方にも着目させる。 </div>
	4 単元名，題名，冒頭の読みをつなぎ，読みのめあてを生み出す。	○ 各自が作った読みのめあてについて出し合い，検討していく中で，全体の読みのめあてとしてまとめていく。	
		読みのめあて	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> ① おばあちゃんは、「わらぐつの中に神様がいなかった話」で、マサエに何を伝えたいのだろう。 ② おばあちゃんの話聞いて、マサエはどう変わるのだろう。 </div>	

予見	<p>3 1 読みのめあてをもとに全文を読み通して難語句を調べ、新出漢字を知る。</p> <p>4 全文を読んで、予見をまとめよう。</p> <p>11</p> <p>2 全体の文章構成をとらえ、あらすじをつかむ。</p> <p>3 根拠となる叙述をはっきりさせて、予見を書きまとめる。</p> <p>4 予見を出し合って話し合い、重なりや違いを明らかにして、予見を方向づける。</p> <p>—— 予想される予見の方向 ——</p> <p>① 人の身になって、心をこめてした仕事や作ったものは、神様と同じくらい大切だということを伝えたかった。</p> <p>② マサエは人の身になって心をこめることの大切さがわかり、わらぐつやおばあちゃん、おじいちゃんへの見方が変わった。</p>	<p>語彙力を育てる手だて</p> <p>◎ 次の語句は、辞書を利用して調べさせる。</p> <p>・しんしん・気ぜわしい・すすける・はなやか・あかぎれ・やまやま・言葉をにぎす・このうえない・あけすけ・いせい</p> <p>・きまりが悪い・おずおず・まじまじ・きょうしゆく・よしあし</p> <p>○ 一行空きに着目させ、「現在－過去－現在2」という文章構成であることに気づかせる。</p> <p>読む力と語彙力を育てる手だて</p> <p>◎ あらすじをつかむ際は、場面の内容と、「過去」→「現在2」における人物のつながりを板書しておさえるようにする。</p> <p>○ 話を聞く前のわらぐつやおばあちゃんに対するマサエの考え方をおさえて、おばあちゃんが伝えたいことをまとめさせる。</p> <p>○ 話を聞く前のマサエの言動を手がかりに、マサエの変容をまとめさせる。</p> <p>○ 根拠にした叙述や理由の違い別に発表させたり、より深い読み方をした発表を後にさせたりして読みの重なりや違いをはっきりさせる。</p>
学習計画	<p>5 1 予見を確かめるために、どこをどう読んでいくのか、予見の根拠や疑問をもとに話し合う。</p> <p>11 予見について話し合い、学習計画を立てよう。</p> <p>—— 読み確かめること ——</p> <p>① おばあちゃんが伝えたいものについて、おみつさんがわらぐつを編む姿、大工さんの言葉、二人に共通している生き方・考え方の三つから読み確かめる。</p> <p>② マサエの変容を、現在2の場面のマサエの言動を詳しく読んで読み確かめる。</p>	<p>○ 予見の曖昧なところ、違いや疑問を位置づけながら、どの言葉や文をもとにして何を読み確かめるのか確認する。</p>

6
・
7
/
11

1 読みのめあて①についての考えを、おみつさんがわらぐつを編む姿、大工さんの言葉、二人に共通している生き方・考え方が分かるところを中心に書き込みをする。

わらぐつを編むおみつさんのすがたや大工さんの言葉などから、おばあちゃんがマサエに伝えたいことを読み確かめよう。

2 わらぐつを編むおみつさんの姿について話し合う。

3 大工さんの言葉をわらぐつを編むおみつさんの姿とつないで、二人の考え方を話し合う。

4 「とっても幸せにくらしてる」の意味を話し合う。

5 本時学習をふり返り、おばあちゃんがマサエに伝えたいことを書きまとめる。

○ 掲示物をもとに、読み確かめる内容とポイントを確認する。

○ おみつさんがわらぐつを編む姿と大工さんの言葉をつないで共通点を読み取り、どんなことが分かるかを書き込ませる。

○ 書き込みをもとに、指名計画を立てておく。

読む力を育てる手だて

◎ 「～ように」の繰り返し、「しっかりしっかり」「その代わりに、」の表現から、人の身になって心をこめるおみつさんの姿をとらえさせる。

○ 大工さんの考え方がおみつさんと同じで、だんだんと二人の心が通い合っていくことをとらえさせる。

読む力を育てる手だて

◎ 現在に続く話し方や、おばあちゃんが今でも数十年前の言葉を覚えていることから、二人が相手を思いやってずっと生きてきたことを読み取らせる。

○ おばあちゃんが幸せというのはどこで分かるか問い返し、雪げたをはかずにしまっていたこととつないで、互いに相手のことを大切にしてきた二人の生き方に気づかせる。

○ 本時で使った読み方を振り返る。

○ おばあちゃんとおじいちゃんが長い間、相手を思いやり、相手のことを考え、人に尽くす生き方をしてきたことを書きまとめさせる。

<p>8 ・ 9 / 11</p>	<p>1 読みのめあて②についての考えを、現在2のマサエの言動の部分に書き込みをする。</p> <div data-bbox="292 297 758 504" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「この雪げたの中にも、神様がいるかもしれないね。」という言葉を中心に、マサエがどう変わったのかを読み確かめよう。</p> </div> <p>2 マサエの変容について話し合う。</p> <p>(1) おばあちゃんに対する見方や、ものに対する考え方の変容を話し合う。</p> <p>(2) おじいちゃんに対する見方の変容を話し合う。</p> <p>3 本時学習をふり返り、マサエの変容を書きまとめる。</p>	<p>○ 「ふうん。だけど、おじいちゃんが…」の文と前の場面とを比較することや、なぜ雪げたに対しても「神様がいるかも…」と言ったのか、というポイントを示す。</p> <p>○ 「雪げたをかかえたまま」からどんなことが分かるのか書き込ませる。</p> <p>○ 書き込みをもとに、指名計画を立てておく。</p> <p>○ 「この雪げたの中にも」の「にも」に着目させ、マサエがおばあちゃんの話聞くことで、自分の、ものに対する考えを深めていることを確かめさせる。</p> <div data-bbox="799 824 1401 1122" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>読む力と語彙力を育てる手だて</p> <p>◎ 「迷信でしょ」「神様だって」の文末表現と比べて、態度が変わっていることに気づかせる。その際音読も交えて、語感の違いからも変容をとらえさせる。</p> </div> <div data-bbox="799 1122 1401 1375" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>読む力を育てる手だて</p> <p>◎ はじめの「みんなに笑われながら」と、現在2の「さけんで」「飛び出して」を比べさせ、マサエのおじいちゃんに対する見方の変容に気づかせる。</p> </div> <div data-bbox="799 1375 1401 1675" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>読む力を育てる手だて</p> <p>◎ 「かかえたまま」「飛び出して」を、似た言葉「待つ」「出て」と比べることで、マサエが二人の考え方や生き方を受け止め、祖父母を見直し、尊敬するようになっていった姿をとらえさせる。</p> </div> <p>○ 本時で使った読み方を振り返る。</p> <p>○ マサエの、おばあちゃん・おじいちゃんに対する見方・考え方の変容を書きまとめさせる。</p>
-----------------------------------	---	---

<p>10 / 11 本 時</p>	<p>1 読み確かめたことを振り返る。</p> <p>2 話の後のマサエが、「わらぐつ」や「神様」についてどう考えているかを話し合う。</p> <div data-bbox="308 456 742 611" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>話の後のマサエが「わらぐつ」と「神様」について、どう考えているかを話し合おう。</p> </div> <p>○ 結局わらぐつをはくのか。</p> <p>○ 神様を信じるようになったのか。また、わらぐつの中に神様はいるのか。</p> <p>3 話し合っより深まった事や自分の考えを書きまとめる。</p>	<p>○ 学習の足跡を残した掲示物を使いながら、振り返らせる。</p> <p>○ 考えの根拠を、物語の叙述や前時まで読み確かめたことに求めるよう指示しておく。</p> <p>○ この物語で使っている「神様」の意味と、本来の神様の意味を比べさせ、神様という表現を使った作者の意図を考えさせる。</p> <p>○ 作者は、マサエがわらぐつをはくはかないや、神様を信じる信じないではなく、おばあちゃんたちの生き方・考え方が非常に崇高で大切なことであるということを読み手に伝えたかった、という結論に導いていく。</p>
<p>読 み の ま と め</p>	<p>11 / 11</p> <p>1 文章構成や人物設定における作者の意図を話し合う。</p> <div data-bbox="308 1352 758 1406" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>読みと読み方のまとめをしよう。</p> </div> <p>2 登場人物の生き方・考え方をどう受け止め、自分の考えがどのように変わっていったかを書きまとめる。</p> <p>3 読み方のまとめをする。</p> <p>○ 文章構成を読む</p> <p>○ 人物設定を読む</p> <p>○ 場面を比べて読む</p> <p>○ 似た言葉を比べて読む</p> <p>○ 文末表現を読む</p>	<div data-bbox="799 1279 1390 1630" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>読む力を育てる手だて</p> <p>◎ 文章構成、雪国の冬という舞台設定や人物設定、そして、読み手に伝えようとする作者の意図に気づかせ、マサエと同じように自分達にも、家族や身の周りの人々への新しい発見があるかもしれないことを意欲づける。</p> </div> <p>○ 学習の足跡を残した掲示物を使いながら、振り返らせる。</p>

6 本時の目標

- 作者が読み手に伝えたかったことを、今まで読みたしかめた内容をもとにして討論形式で話し合い、確かめることができる。
- 物語の叙述や前時まで読み確かめたことをもとにして、自分の意見を持つことができる。

7 本時指導の考え方

前時まで子どもたちは、おばあちゃんがマサエに伝えたかったことについて話し合い、相手を思いやり、相手のことを考え、人に尽くすことはとても大切であることと、マサエのおじいちゃん・おばあちゃんに対する見方・考え方の変容を、その言動から読み取ってきている。本時は、それら読み取ったことをもとにしてその後のマサエについて話し合うことで、読み取ったことを再確認すると同時に、より深めるための学習である。

本時では、まず前時まで読み確かめたことを、学習の足跡を残した掲示物を使って確認する。

次に、マサエがこの物語の後どういう行動をとるのかを話し合う。はじめの場面でマサエが何をしようとしていたか、どんなことを考えていたかをもう一度想起させ、「結局わらぐつをはくのか」「神様を信じるようになったのか。また、わらぐつの中に神様はいるのか。」という問題を作り出していく。前者については、読み取ったことや叙述をもとに、マサエの気持ちや自分の考えも含めて議論させる。議論をしながら「なぜ作者はこのことを書かなかったのだろう。」という意識を持たせ、「作者は人のことを考えて心をこめることがすばらしいということを読み手に伝えたかった」という共通の考えを引き出し、まとめていく。後者については、「神様」という表現が何を意味しているかという視点で議論させ、おじいちゃんの言葉や雪げたについてのマサエの言葉などを根拠にして、作者がこの表現を使った意図「神様＝非常に崇高で大切なもの＝人のことをおもう心」としてまとめていく。

最後に、話し合っより深まった事や自分の考えを書きまとめさせる。ここでは、読み確かめの段階での書きまとめと全く同じにならないよう、本時で話し合った内容を意識させ、板書を参考にして書きまとめさせるようにする。

8 板書計画

<p>人物の考え方や生き方をとらえよう</p> <p>わらぐつの中の神様 杉 みき子</p> <p>めあて</p> <p>話の後のマサエが、「わらぐつ」と「神様」について、どう考えているかを舌こきょう。</p>	<p>話の前</p> <p>「やだあ、わらぐつなんて、みったくない。だれもはいてる人ないよ。だいいち、大きすぎて、金具にはまらんわ。」</p> <p>・見た目を気にする</p> <p>・わがまま</p> <p>・言い方調子にのっている</p>	<p>話の前</p> <p>「わらぐつをはく」</p> <p>・おばあちゃんをそんけいするようになったから、言うことを聞く</p> <p>・わらぐつ(心をこめて作った物)のこを見直した。</p> <p>わらぐつをはかない</p> <p>・おばあちゃん達の生き方はわかったが、わらぐつのよさを見直したわけではない。</p>	<p>話の後</p> <p>「あら、きれいだ。かわいいね。」</p> <p>かかえたまま、</p> <p>「おかえんなさあい。」</p> <p>・言い方がやさしくなっている。</p>
<p>なぜ作者は書かなかったのか。</p> <p>作者は、人のことを考 えて心をこ めることが すばらしい というこ とを読み手 に伝えたか つた。</p>			
<p>神様とは…</p> <p>この上もなく大切なもの</p> <p> 人のことを考える心</p>	<p>話の前</p> <p>「わらぐつの中に、神様だつて。」</p> <p>「そんなの迷信でしょ、おばあちゃん。」</p> <p>おばあちゃんは古い</p> <p>・信用していない</p> <p>・神様なんていないの</p> <p>「使う人の身になって、心をこめて作ったものには、神様が入っているのと同じなんだ。」</p> <p>それを作った人も、神様とおんなじ</p> <p>「神様」</p>	<p>話の後</p> <p>「…この雪げたの中にも、神様がいるかもしれないね。」</p> <p>おばあちゃんのことをそんけいするようになった</p>	

9 本時の展開

主な学習活動	指導上の留意点
<p>1 前時までに読み確かめたことを想起する。</p> <p>2 冒頭を振り返り、マサエが物語の後どうするかを話し合うための問題作りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冒頭でのマサエの発言を振り返る。 <p>— めあて —</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>話の後のマサエが、「わらぐつ」と「神様」について、どう考えているかを話し合おう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・冒頭のマサエの発言やそこからわかったことで、読み確かめていないことを確認する。 <p>① マサエは結局わらぐつをはくのか。</p> <p>② マサエは神様を信じるようになったのか。また、わらぐつの中に神様はいるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の足跡を残した掲示物を使いながら想起させる。 ○ 冒頭のマサエの発言やそこからわかったことと、現在2の場面での、マサエの発言や読み確かめたことを黒板に並記しておく。 ○ めあてを書く前に、冒頭のマサエの発言がわらぐつについて「やだあ、わらぐつなんて、みったぐない。」と、わらぐつの中の神様について「そんなの迷信でしょ、おばあちゃん。」の二つであったことを確認する。
<p>3 ①の問題について、立場を明確にして話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>考えられる根拠</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・はく・・・おばあちゃんを尊敬、わらぐつに対する見方が変わった事 ・はかない・・・おばあちゃんが言いたい事は分かったが、わらぐつの機能を見直したわけではない 	<ul style="list-style-type: none"> ○ このことについて叙述がないので、読み確かめたことや自分の考えを根拠にさせる。 ○ 話し合いが、はくはかないの議論に終始した時は、「どうして作者はこの事を書かなかったのだろう。」という問いを入れる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>まとめていく方向</p> </div> <p>作者は「マサエがわらぐつをはくかはかないか」ではなく、人のことを考えて心をこめることのすばらしさを読み手に伝えたかった。</p>
<p>4 ②の問題について、立場を明確にして話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現在2の冒頭であるわかい大工さんの言葉と、マサエの「ふうん・・・」の言葉を中心に考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>まとめていく方向</p> </div> <p>作者は神様という表現を「神様＝この上もなく大切なもの＝人のことを考える心」という意味で使っている。</p>
<p>5 話し合っより深まったことや自分の考えを学習プリントに書きまとめる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時で話し合った内容を、板書を使って確認する。